

## 分科会内容

### 第1分科会 「自閉症の人たちの暮らしを支える」

～ 日中活動支援事業所が連携を通して暮らしを支えるには～

担当施設 わたげ

法の移り変わりに伴って、施設の事業は多様化している。そんな中で、日中活動支援を行う事業所は、単に施設内での活動を支えることだけでは、自閉症の人たちの暮らしが豊かになっているという実感を持ってないことも多いのではないだろうか。時には、家族からの相談や本人の状況に合わせて、施設を離れ、家族や他機関と連携を取って支援を行う必要性も生じてくる。

この分科会では、日中活動支援の事業所が、家庭や他機関との連携を通して、自閉症の暮らしを支える実践を学びながら、自閉症の人たちが地域で暮らして行くために必要な支援の在り方を見つめ直す機会としたい。

【報告者】 ・渡辺 圭一 氏（神奈川 横浜やまびこの里 ポルト能見台）

・庄司 恵美子 氏（神奈川 横須賀たんぼぼの郷 ふぁず）

【司 会】 ・後藤 博行 氏（神奈川 横須賀たんぼぼの郷 わたげ）

### 第2分科会 「地域生活移行への方途・問題点及び地域生活の現状とその課題」

担当施設 藤野さつき学園

いわゆる「基礎構造改革」路線が提唱されて以来、障がい者の地域生活への移行促進が叫ばれている。前回の神奈川大会において、本学園は担当施設として「自閉症に特化したバックアップ施設としての役割」をテーマに掲げ、その役割を 従来の入所施設としての役割、 レスパイト施設としての役割、 地域生活移行への役割の3つに分けそれらを網羅的検討を行った。

今回は、地域生活移行への役割に焦点を絞り、移行への方途・問題点及び移行した地域での生活の現状と課題を分析検討することにより、今後の円滑な地域生活移行への一助としたい。

【報告者】 ・加茂 正和 氏（千葉 GH さくらの家・たんぼぼの家）

・渡辺 智人 氏（茨城 GH あいの家）

・伊藤 広明 氏（埼玉 初雁の家）

・中山 祥子 氏（埼玉 GH 潮寮）

【コーディネーター】 ・町田 重光 氏（神奈川 藤野さつき学園）

【司 会】 ・江島 直樹 氏（神奈川 ライム・ライトさつき相談センター）

### 第3分科会 「行動障害をひもとく～自閉症児者の障害特性を踏まえた適切な支援～」

担当施設 弘済学園

生まれながらにして、行動障害を示す人はだれもいない。行動障害は、本人が生きていく中で、まわりからの理解不足、誤解、それに起因する「本人にとって好ましくないかわり」が重ねられることにより、形成される。もともと同一素質であっても、かわり方によって本人の行動の示し方には大きな差が生まれる。行動障害とは本人の持つ素因とそれを取り巻く環境との相互作用の結果である。理解不足や誤解を生む要因の一つに、自閉症の障害特性がある。コミュニケーション、社会性、想像力の障害と、それに基づく同一性の保持や常同行動などは、まわりに奇異に映る。また、自閉症特有の感覚異常は、まわりには理解されにくい。

行動を一方的に規制、修正、ときには叱責されてきた経験、苦痛を我慢し続けてきた経験は、他害、もの壊し、粗暴性など、攻撃的な側面を持つ行動障害へと発展しやすい。一方、本人の傾向を

熟知し、それに見合ったかわりがなされることは、本人にとって大きな救いであり、人への安心感につながる。安心感を積み重ねた本人は、まるやかな全体像を見せるようになり、まわりからより受け入れられやすくなる。こうしてプラスの循環が形成され、行動障害の改善につながっていく。本分科会では、行動障害の事例報告を通して、適切な自閉症児者支援のあり方について検討する。

- 【報告者】 ・辻田 剛己 氏・鎌野 洋朗 氏（静岡 さつき学園）  
・平下 直樹 氏（岐阜 東濃自閉症援助センター「かさはら」）  
・栗原 聡美 氏（神奈川 弘済学園）
- 【コーディネーター】 ・志賀 利一 氏（国立重度知的障害者総合施設のぞみの園）
- 【司 会】 ・高橋 潔 氏（神奈川 弘済学園）

#### 第4分科会 「自閉症・発達障害支援の専門性を担保するために、

法人運営、人材育成の今を考える」

担当施設 やまびこ工房

私たち全自者協の会員施設（法人）は今日に至るまで、自閉症支援に特化した専門の支援機関として相応しい人材の確保と育成に努め、自閉症理解に基づいた支援の提供に情熱をもって取り組み、全国の仲間とともに切磋琢磨してきた。アベノミクスの効果か否かは別として民間企業の採用活動が活発化する中で、福祉分野においては人材の確保がつかないほどの困難に直面している。そうした中で、人材難に起因したと思われる事件や事故が全国の福祉関連事業所において、残念ながら後を絶たない状況にある。こうした逆風の吹き荒れる状況下ではあるが、自閉症の概念が広がりニーズが多様化する中で、専門性を担保した支援ニーズの高まりに我々はどのように応えていくのか。その方策について各法人の取り組みから議論を深め対応策を共有したい。

- 【報告者】 ・五十嵐 康郎 氏（大分 萌葱の郷）  
・松上 利男 氏（大阪 ジョブサイトよど）  
・金子 浩治 氏（北海道 はるにれの里）
- 【司 会】 ・中島 博幸 氏（神奈川 やまびこ工房）

#### 第5分科会 「相談支援センターによる自閉症児・者の生活支援を考える」

～ニーズに則った支援を行い地域生活を支える～

担当施設 川崎市くさぶえの家

障害者総合支援法が施行され、その中に「相談支援の充実」が盛り込まれ2年が経過した。一般相談の他、入所施設・病院・家庭生活などからの自立支援、休日などの余暇プログラムの提案など、本人のニーズの実現に日々支援センターは奔走している。しかしニーズは多岐に渡り、また社会資源との調整などケアマネジメントの手法以上の支援技術が必要とされる激務に直面しているのが事実である。

本分科会では支援センターの実践報告と共に、相談支援の現状と課題、これからについて発表いただくが、相談支援には所属する施設支援員との連携が不可欠である。この分科会をチーム体制で支援に臨む参考にもしていただきたい。

- 【報告者】 ・漆山 敬夫 氏（神奈川 川崎市くさぶえの家）  
・濱口 直哉 氏（兵庫 地域支援センターあいあむ）
- 【コーディネーター】 ・菊本 圭一 氏（日本相談支援専門員協会事務局長）
- 【司 会】 ・五十嵐 猛 氏（大分県発達障がい者支援センターECOAL）